

提言書素案 内容項目Ⅲ 提言理由－3－② 二宮町の学校教育に係る喫緊の課題

1 研究会協議のテーマ（話し合いの目的）

○子どもたちの課題や目指す子ども像に沿って見たときの課題性

○この状況が改善されないと、目指す子ども像には近づけないのではないかという視点

○その理由

2 協議の要点

○小規模校(小中一貫校をつくるなかで)

「一色小学校の小規模化は、あまり心配しなくて良い」という意見がある。一方、構造的な問題として、小学校が単級の場合、一年生、二年生のときに課題があった時に、それを解決しにくいという問題、中学校は、教師の人数減により専門の先生が配置されないという状況が想定される。

○不登校(現在の取り組み そして小中一貫校をつくるなかで)

背景やきっかけは多種多様で、一人ひとり違う。ある方法で解決できるというものではない。しかしできるだけ学校に行けるようにするにはどうしたらいいかを探って行く必要がある。

○諸課題(協議して必要なものは できるものから取り組む)

バスなどの遠距離通学者への配慮 プール建設 トイレの洋式化 体育館エアコン

緊急時の学校の連絡手段を統一 化学物質過敏症対応

制服検討委員会でのマイノリティへの配慮

3 提言に盛り込みたいこと

○小規模校の課題を乗り越えようとする先生方の努力と 保護者・地域の方々の支援はありがたいが学校の適正規模・機能的な運営を考えると 小・中学校の小規模化は避けたい。

○これからは「不登校対策」というより「誰一人取り残されない 学びの保障に向けた 不登校対策」(COCOLOプラン)2023年3月31日に向けた対策を考えていく必要がある。例にある不登校特例校 さらに踏み込んで自主性・個性・多様性・体験活動を大事にした学校の設立なども検討したい。

4 参照先

二宮町小中学校の喫緊の課題と施設一体型小中一貫教育校設置の意義

https://1drv.ms/u/s!AoUD5uxaKpBhJ1K_xMmvaxQlRTMww?e=MQ8Qsb

担当（野谷 悦）